石井造園株式会社 CSR報告書

YOKOHAMA

幸福を共有できる企業を目指して

石井造園株式会社　代表取締役　石井直樹

代表取締役　石井直樹

日頃は弊社の活動に対し、ご理解、ご協力を頂きありがとうございます。

昨年のCSR報告会でお約束した報告会の開催、並びに報告書の発刊が今年も出来ますのは、ひとえにお支え頂く皆様のおかげだと心より感謝しております。

私が働き始めた昭和60年頃は、景気が良く会社の売り上げも、私の給料もどんどん上がりました。その当時と比べると昨今の経営環境や自然環境、物事の価値観は大きく変わり、決して良い状態ではありません。

しかし最悪はこれから先の未来にあり、このまま行くとみんなで不幸せを共有する未来になりはしないかと不安になります。そうならない為に、皆様と共に良い社会にしていかなければならないと思います。

個人はより深く研鑽を積み、世の中に役立てることで価値を高め、掛ける迷惑を最小限にして自立しなければならないと思います。

企業は地域経済の発展の中にこそ、自社の繁栄があると信じ、個人の活躍の場を獲得することが地域への貢献につながるよう努力し、責任を果たしていかなければならないと思います。

地域社会は個人や企業の真の価値を見出し、努力や成果に対し、正当かつ公平に評価する基準を様々な価値観の中にあっても持ち合わせなければならないと思います。また社会的弱者に対して、きちんと見守る和の心を持ち合わせなければならないと思います。

今年度も『ついでに、無理なく、達成感のある事をしよう』の合言葉のもと、19の活動を展開しました。各セクションで報告しますが、特に意識して行ったのが、インターンシップの受け入れでした。中学生には働くことの意義、尊さを伝え、職場体験と職場訪問インタビューを受けました。

対人関係がうまくいかない人や、発達障害がある人の雇用を目的とした受け入れもしました。大手企業では、障害のある人を積極的に雇用していますが、弊社では数多くの人を雇うことはできません。それは仕事の内容や安全管理の面から難しいのです。しかし、グループで作業をする中で、現場の職長が分かり易い作業指示を出し、より安全な作業環境を作ることで、同じ汗を流して働くことが出来るのです。お互いに多くの気付きを頂き、社員の意識も変わりました。

より質の高い公共設備を地元横浜市にお返しするというミッションは3件の工事を受注し、80点以下が1件ありました。反省をし、改善を図った結果、年度末工期の2件はいずれも80点以上で、内1件は90点でした。21年度までに横浜市発注の工事は、累計で24件、内21件が80点以上を頂いており、今年度も優良工事請負業者の表彰に向け努力を重ねてまいります。

また今期は、売上と経常利益もぎりぎりで目標を達成することが出来ました。よく「CSR活動と企業経営は両輪だ」という経営者がいますが、左右の両輪ではなく、前後の両輪なのだと思います。弊社では企業経営が駆動輪でCSR活動は従輪だと考えています。いずれにせよ前向きに進むしかないと思うのです。

5月決算を睨みつつ、CSR活動の見直しをし、下記の22年度CSR目標を策定いたしました。これからもより深い活動を展開し、皆様から信頼される企業を目指してまいります。宜しくお願い申し上げます。

私たちの想い

弊社は零細企業です。決して日本全国もしくは世界を相手に活動することはできません。だからこそ身の丈にあった、地域に根付いた活動ができると思っています。横浜型地域貢献企業として、また、地域社会の一員として皆様と活動する為、生の声を直接聞いたり、頂くことができます。だからこそ皆様の言葉を大事にしたいです。

すべての活動は「ありがとう」の言葉の為に。

CSR推進責任者　雨宮純平

石井造園株式会社 経営理念

企業活動を通して、顧客及び社会から信頼される企業をめざす

CSR方針

石井造園株式会社は経営理念にある、顧客及び社会に信頼される企業を目指すため、生業の全てにおいて、地域志向CSR方針を打ち立て事業を展開していきます。

1) 活き活きとした活力ある職場環境を作ります。
2) 仕入れや発注先は地元を優先し、地域経済の発展に寄与いたします。
3) 緑を扱う者として地球環境の改善に貢献します。
4) 法に抵触する事はもとより、事後に発覚し格好の悪い事は、絶対にしません。
5) この活動の有効性を監視し、永続的に改善いたします。

CSR方針に基づき地域社会の一員として、地域に活かされている我々である事を確認し、地域貢献企業として事業を展開していきます。

平成22年度CSR目標

①CSR年間活動計画及び目標展開表を活用し、P.D.C.A.を円滑にする
②倫理的規範を充実する
③地域作業所の調査・研究
④各現場で緑化啓蒙活動を実施し苗木配布を500本する

サクラのおはなし “ソメイヨシノ”の由来は？

日本の春を彩る桜の代表は「ソメイヨシノ」（バラ科サクラ属）です。漢字で書くと「染井吉野」ですが、何か変な名前だと思いませんか？染井さんが作ったの？吉野さんが見つけたの？答えは江戸時代にさかのぼります。

まず、「染井」は江戸の染井村のこと（現在の東京都豊島区あたり）で、その付近の植木屋さんが販売した「吉野桜」という商品が名前の由来です。つまり、染井村で売っている吉野桜、略して「ソメイヨシノ」というのが定説です。また、このソメイヨシノは桜の野生種でなく、オオシマザクラとエドヒガンザクラの交配種といわれています。では「ヨシノ」はどこから来たのかというと、古くから桜の名所である大和（奈良県）の吉野山にちなんで染井村の植木屋さんがつけた、といわれています。しかしこれでは吉野山に自生しているヤマザクラと混同される可能性があるということで、正式に「染井吉野」という名前が付けられたという経緯です。

ちなみに桜の野生種は大きく分けて10種「ヤマザクラ」「ウスゲヤマザクラ」「ツクシザクラ」「オオヤマザクラ」「カスミザクラ」「オオシマザクラ」「マメザクラ」「キンキマメザクラ」「エドヒガン」「ミヤマザクラ」。中国原産の「カンヒザクラ」も有名ですね。

鶴岡八幡宮の大イチョウ

過日、鶴岡八幡宮の大イチョウが倒れてしまいましたね。永く親しんできた名木だけに本当に残念です。孫の代まであの姿でいてくれると思ったのに…。しかし、倒れた際にバラバラになる程の衰え方には疑問があります。私見ですが、深植えによる根腐れが原因ではないかと感じました。倒れた切断面を見ると、地表付近の根は二段根に見え、折れた箇所は地際ではありますが根元に近い幹の部分で折れているように見えます。つまり、本来このイチョウが芽吹いた時の地面は地中深く1mくらい下にあり、その後何らかの原因で埋まってしまい、石垣ができ、現在に至ったのではないか？それが原因で樹木全体が衰えた、というのが石井造園㈱の小林説です。

お庭の手入れに行くと「深植え」が原因で具合の悪くなっている木をたまに見かけます。八幡宮のイチョウのように倒れる前に早めに対策をしましょう。

緑化基金はじめました

20年度より弊社独自に緑化基金を設立しました。基金は緑あふれる地域の学校、施設、団体の活動のために活用します。基金は、現在弊社の工事・作業・手入れ等の全業務において、請求金額のうち末尾3桁の金額（1〜999円）までを集計し、さらにその同額を弊社からも寄贈するかたちで集めます。123,456円の工事の場合、工事金額から456円と弊社から同額の456円を合計し、912円を基金とします。諸団体と相談して、年間の合計額を植樹、鉢植えの寄贈のほか、緑化活動の為の費用として大切に利用したいと考えております。20年度は合計64,512円、21年度は66,266円が集まりました。今後も引き続き継続していきます。小さな活動ですが、地域ために出来ることを一歩ずつ積み重ねていきたいと思います。

ご協力頂いた方々

(宗)青木神社・荒井邸・飯島邸・イオンディライト(株)・池田邸・池谷邸・(株)井幸建設・石井邸・犬山町内会・今市邸・植木屋美樹・エミナンス井土ヶ谷管理組合・(有)大川園芸・大塚邸・(株)大船住研・大船ルーテル保育園・岡野邸・尾見邸・社会福祉法人杜の会かさまの杜保育園・(財)神奈川県警友会・神奈川県横浜労働センター・吉備邸・工藤邸・(株)九つ井・坂本邸・左近山団地中央地区住宅管理組合・桂台町内会・清水邸・湘南建設(株)・白幡小学校・逗子シーサイドハイツ管理組合・(株)セイフティ・ユー・(株)センチュリー工業・(宗)大光院・大洋建設(株)・高岸建設(株)・高橋邸・(株)タクエー・(株)タツノメカトロニクス・(宗)長福寺・伝創(株)・東京舗装工業(株)・学校法人東洋英和女学院・東和警備保障(株)・都市経営研究所・中野地域ケアプラザ・名川邸・並木幼稚園・西本郷中学校・野沢邸・畠山邸・花時計プロジェクト・(有)浜建・原邸・県立フラワーセンター大船植物園・星邸・本舞台小学校・本郷台とミコマンション管理組合・(株)松村組・(株)丸保・三好邸・(株)村上工務店・杜の会小規模多機能事業所「晴」・山本邸・横浜市・横浜市グリーン事業協同組合・(株)ヨコハマタイヤジャパン・(有)ワタナベペイント【敬称略・五十音順】

寄稿　石井造園㈱CSRに対する意見

横浜市立大学CSRセンター長　影山 摩子弥

石井造園さんの取り組みについて、注目すべき点と課題と思われる点に触れておきたいと思います。

〈注目すべき点〉

①石井造園さんのCSRは、ホームページで紹介されているように環境、地域社会貢献、品質に重点がおかれています。重要なステークホルダー（利害関係者）のニーズに応えるため、取り組むべきCSRは何かをよく考え、効果的な取り組みをしていることが伺えます。

②社会貢献に取り組む際、「ついでに無理なく」を方針としている点は特筆できます。無理をしては続きません。よい取り組みを続けるコツをつかんでいます。

③社長と社員の意思の疎通が非常によく取れています。社長の思いを社員が理解し、効果的にCSRを実践できます。

④取り組みの結果、社員のやる気や会社への求心力につながっています。

⑤地域の顧客など、地域ステークホルダーに取り組みを知ってもらうことは、不可欠ですが、報告会は、非常によいイベントです。「石井造園を肌で感じてもらう」ことで、ステークホルダーの共感や評価を生みますし、印象に残りやすくなります。

〈課題点〉

取り組みの直接の成果だけではなく、経営上の効果について、定期的に自己チェックをされるとよいと思います。定性評価でかまいません。それこそ、よい取り組みを向上させつつ続けるために必要な作業です。

影山 摩子弥
横浜市立大学
国際総合学科研究院教授
CSRセンター長

動向レポート　CSRの現状とこれから

近年の「CSR（企業の社会的責任）」の動向を調査してみました。各企業とも、自社の営業活動や製品が社会に与える影響を考え、決意を込めてCSR方針の表明や報告を行っています。それは、自社の業務の誠実さを表現して、お客様を中心としたステークホルダー（株主や取引先を含む利害関係者）から厚い信頼を得て、企業のブランド力を向上させたいという想いからです。

しかし、企業の想いとは裏腹に、取引を行う企業を選択する際、CSRへの取り組みの度合いは、選択基準としてあまり定着していないのが現実です。WEB検索をしてもCSRの話題は平成18年から20年ごろのものが多いです。ちょうど食の偽装や、食中毒騒ぎがあった頃で、近年はあまり取り沙汰されていません。

このことは、誠実に責任を果たしている企業が増え、当たり前の活動として定着してきたことの表れとも言えるかもしれません。

しかし学生からの注目度は高いようです。就職活動の際にも企業を選ぶ選択肢の一つとして捉えています。実際、弊社の活動に対して、学生からの問い合わせが数件ありました。優秀で誠実な想いを持った人材を獲得できるということは、企業が発展してゆく為に重要な要素であることは間違いありません。

CSRへの取り組みが、「当たり前」になってゆきつつある現在、この「当たり前」に誠実に取り組み、不誠実な行動はすぐに社会から見放されるということを肝に銘じ、襟を正して、責任をひとつずつ果たしてゆきたいと思います。